

# ビーだま

## ビーだまのように、キラリと光る一冊を

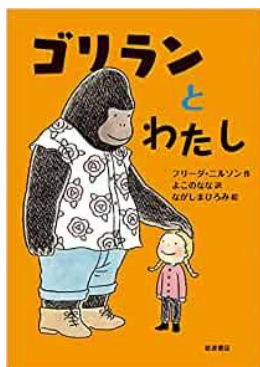
2021 年 1 月～12 月に発行された本の中から、とくにおすすめの本を紹介ししょうかいます

<編集・発行> 富山市立図書館 富山市西町 5 番 1 号  
電話 076-461-3200  
令和 4 年 4 月 23 日発行 (年 1 回発行)



### ゴリラとわたし

フリーダ・ニルソン／作 よこのなな／訳 ながしまひろみ／絵 岩波書店



親のいないヨンナを引き取ったのは、ゴリラのゴリランでした。体が大きくかわり者のゴリランは、町はずれの古い工場で、がらくたを売ってくらしています。はじめはおびえていたヨンナですが、いっしょに暮らし、店をてつだううちに、毎日が楽しくなってきました。

ところが、町の土地開発計画を進める議員ぎいんがやってきて、家を手放すようせまります。

## カメくんとイモリくん こさめ 小雨ぼっこ

いけだけい／作 高島純／絵 偕成社



カメくんとイモリくんは、なかよしのおとなりさんでした。あるとき、大雨でイモリくんは家が流され、遠くの池に引っこしてしまいました。

一年がたち、イモリくんがカメくんの家に遊びに来ました。パーティーをしたり、川下りかわくだをしたり、二ひきはいっしょにすごす時を楽しみます。



## オンボロやしきの人形たち

フランシス・ホジソン・バーネット／作 尾崎愛子／訳 平澤朋子／絵 徳間書店

ある女の子の部屋に、古い人形たちが楽しくくらしている「オンボロやしき」がありました。

ところが、女の子の乳母うばが、オンボロやしきをもやしてしまおうと考えます。人形たちは大あわて。そのとき、ふしぎなことがおきました。乳母がやしきを動かそうとしても、びくともしないのです。



## おてんばヨリーとひげおじさん

アニー・M.G. シュミット／作 フィープ・ヴェステンドルフ／絵 西村由美／訳 岩波書店



新しい列車が走る、きねんの日。車掌しやしやうの〈ひげおじさん〉は、大はりきりです。しかし、出発しようとしたとき、小さな女の子ヨリーが、おじさんを止めました。たくさんのハリネズミが列車に入りこんだというのです。やっとのことで列車は出発しますが、さらに大きなじけんが起こります。

## 体育がある

村中李衣／作 長野ヒデ子／絵 文研出版



あこは、運動が大の苦手。とび箱の四段もとべないし、さかあがりもできません。転校してきてから先生もきびしく、体育の時間はゆううつでした。

夏休みには、遠泳があります。でも、あこは二十五メートル泳ぐのもやっとです。そんなあこに、ママは、海に行ってとっくんしようと言い出します。

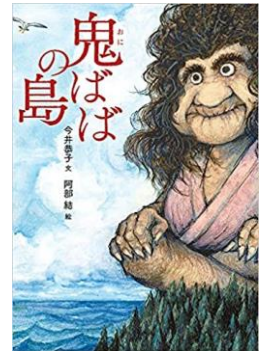


## おに 鬼ばばの島

今井恭子／文 阿部結／絵 小学館

海の真ん中の小島に、鬼ばばがくらしていました。入道雲のように大きな体の鬼ばばは、家族もすて、一人ぼっちで長い時間を生きてきました。

ある日、あらしでそうなんした男が流れつきました。男をたすけた鬼ばばは、島から去ってほしくないと思うようになります。



## ロサリンドの庭

エルサ・ベスコフ／作 菱木晃子／訳 植垣歩子／絵 あすなろ書房

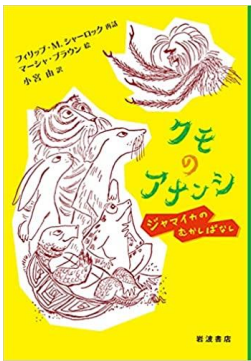


病気がちな少年ラーシュ・エリックは、毎日ひとりぼっちでねていました。あるとき、壁からノックの音が聞こえ、ロサリンドと名のる女の子があらわれます。

ロサリンドは、壁紙の花に水をやり、きれいにさかせます。そして、ラーシュ・エリックを、壁の中の自分の庭へとさそいました。

## クモのアナンシ ジャマイカのむかしばなし

フィリップ・M. シャーロック／再話 マーシャ・ブラウン／絵 小宮由／訳 岩波書店



森で一番弱いアナンシが、一番強いトラにたのみごとをします。トラはアナンシをわらいものにしようと思ひ、へびを生けどりにすればねがいをかなえろと言いました。

人間になったりクモになったりする、ずるがしこいアナンシが主人公のゆかいな昔話です。



## ホタルイカは青く光る

阿部秀樹／写真と文 小学館

春の富山湾<sup>とやまわん</sup>では、ホタルイカの漁<sup>りょう</sup>がさかんです。

夜の海、船の明かりを消すと、あみの中は青い光でいっぱいになります。ホタルイカは、小さな体に、700から1000この発光器<sup>はっこうき</sup>をもっているのです。とても身近で、とてもふしぎな、ホタルイカのとくちょうをしょうかいします。



## 二平方メートルの世界で

前田海音／文 はたこうしろう／絵 小学館



わたしは、脳神経<sup>のうしんけい</sup>の病気で、小さいころから入院をくり返しています。病院のベッドの大きさは、二平方メートル。このせまい世界から、こわいちりょうやけんさに立ち向かうのです。

ある日ふと、ベッドの上のテーブルのうらを見ると、そこには思いがけないものがありました。